

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **55** 号

平成17年10・11・12月



(左列より)紺牙撥鏤菓子、紅牙撥鏤菓子、黒菓子、白菓子(北倉25)

特別展

遣唐使と唐の美術

9月20日(火)～10月10日(月・祝)
西新館

特別陳列

模造にみる正倉院宝物

9月20日(火)～10月10日(月・祝)
西新館

特別展

第57回 正倉院展

10月29日(土)～11月14日(月)
東・西新館

特別展

金沢文庫の名宝

平成17年12月3日(土)～平成18年1月15日(日)
東・西新館

東大寺公慶上人

－江戸時代の大仏復興と奈良－
平成17年12月3日(土)～平成18年1月15日(日)
西新館

平常展

仏教美術の名品

本館

中国古代青銅器

本館

特別展

第57回

正倉院展

天平の息吹を今に伝える、秋の正倉院展。第五十七回目となる今年は、数ある宝物の中でも遊戯具、楽舞関係の遺品、あるいは貴重な素材を用いた品々が数多く出品されます。また動物を表した宝物や動物から得られる素材を加工した宝物が揃い、天平時代の人と動物の関わりが想像される点も、今年の特色です。

遊戯具では、十二年ぶりの出陳となる木画紫檀碁局（碁盤）が特に注目されます。『国家珍宝帳』にも記載される由緒あるこの品は、高価なシタン材を用い、象牙を盤面の界線や盤の稜角、側面の装飾文様などにふんだんに用いた豪華な作りで、聖武天皇御遺愛というのも大いにうなずかれる逸品です。また引き出し状に作られた碁石入れは、亀を象っており興趣を添えています。しかも、この引き出しは一方を引き出すと反対側のもう一方も引き出されるという仕掛けが施されていて、興味が尽きません。なお、この碁局のいれものである金銀亀甲碁局龕は全面に亀甲文が施されており、碁局の引き出しに表された亀とのイメージの共有が注意されます。これに加えて今年は碁石や碁石入れなども出品され、天平時代の碁の世界が鮮やかに甦ります。

一方、貴重な素材を用いたものとして、サイの角を用いた犀角如意、犀角杯が注目されます。サイの角は加工が容易で独特の風合いを持つことから如意などの仏具や刀子の鞘・柄

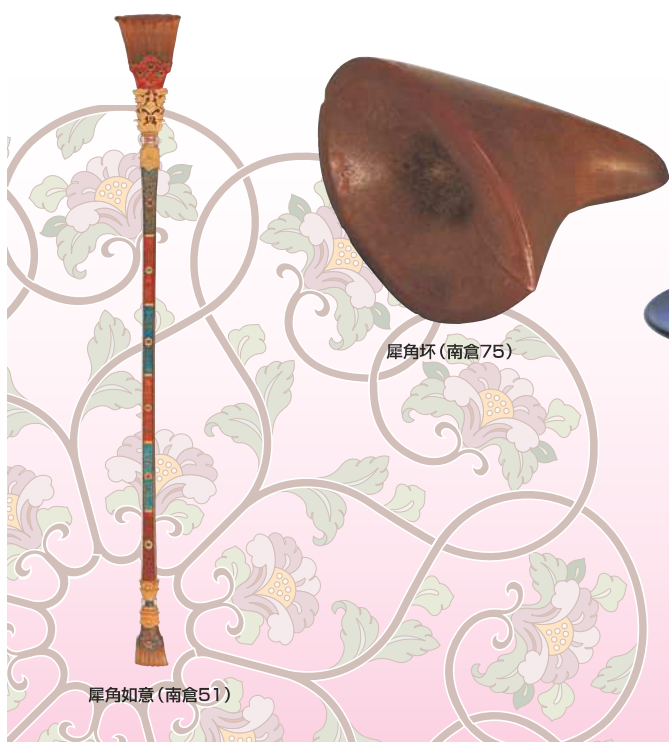
■会期 十月二十九日(土)～十二月十四日(月)
会期中無休
■会場 奈良国立博物館 東西新館
■主催 奈良国立博物館
■協力 J R 東海、日本生命
読売新聞社、NHK 奈良放送局、奈良テレビ放送

などに用いられました。また解熱・解毒の効果があると信じられ、飲用器にも加工されました。正倉院宝物に用いられた犀角はインドや東南アジアに棲息するサイの角を用いており、東西の交易を通じて我が国にもたらされたものです。このほかにもサイを表した錦の残片である犀連珠円文錦残片、トラを象った楽舞用のかぶりものである布虎兜、宝庫に秘藏された象牙など、今年は動物にちなんだ宝物が多数集まります。

初出陳も二十件と話題豊富な第五十七回正倉院展、馥郁たる天平の余香をじっくりとお楽しみ下さい。



平螺鈿背八角鏡(北倉42)



犀角如意(南倉51)



犀角杯(南倉75)



瑠璃壺(中倉71)

特別展

金沢文庫の名宝

会期 平成17年12月3日(土)～
平成18年1月15日(日)

会場 奈良国立博物館 東・西新館
主催 奈良国立博物館
神奈川県立金沢文庫
朝日新聞社

鎌倉時代、執権・連署として幕政の実権をにぎった北条一族のなかに、二代執権義時の子・実泰を初祖とする金沢北条氏があります。実泰の子・実時は五代にわたる執権の補佐役として引付衆や評定衆をつとめ、蒙古襲来にゆれ動く幕府を支えました。実時は、政策の参考となる経史・法制・農政・軍事などの学問に心を寄せ、たくさんのお書物を集めました。

実時は蔵書を鎌倉に置きましたが、火災の経験をつまえ、鎌倉に隣接する六浦庄金沢(横浜市金沢区)の別邸の脇に文庫を創設し、菩提寺の称名寺に管理をゆだねました。顕時・貞顕・貞将の三代の子孫に引き継がれた金沢文庫の蔵書はさらに充実してゆきます。また、称名寺は東国の仏教の一拠点となり、宋版一切経をはじめ膨大な仏



●北条実時像【部分】(称名寺蔵・金沢文庫保管)

典が集められました。

元弘三年(一一三三)、鎌倉幕府は滅び、金沢北条氏も運命を共にしました。保護者を失った金沢文庫の蔵書は称名寺によって管理されましたが、足利氏・上杉氏・豊臣氏・徳川氏など、代々の支配者によって持ち出され、しだいに散逸していきました。

明治時代以降、有名無実となった金沢文庫を復興しようという気運が識者のあいだで高まり、昭和五年(一九三〇)に神奈川県によって金沢文庫が再興されました。称名寺から寄託された大量の寺宝や古書は、整理・調査研究をへて展示公開されるようになりました。

本展は、中世文化の粋ともいべき金沢文庫・称名寺伝来の文化財のうち、選りすぐりの名品を一堂に会します。金沢文庫の作品がこれだけまとめて外部で公開されるのは初めてのことです。この千載一遇の機会に、ぜひ会場に足をお運びいただきたいと思っています。



青磁花瓶・花台(称名寺蔵・金沢文庫保管)

特別展

東大寺公慶上人

こう けいしやう にん

―江戸時代の大仏復興と奈良―

会期 平成17年12月3日(土)～
平成18年1月15日(日)

会場 奈良国立博物館 西新館
主催 奈良国立博物館、東大寺、朝日新聞社

東大寺の大仏殿は戦火で二度焼失し、現在の建物は宝永六年(一七〇九)に完成したものです。鎌倉時代に再建された大仏殿がふたたび焼失したのは永禄十年(一五六七)のことで、大仏の頭部も溶けてしまいました。そののち両手や肩などは修復されますが、木製銅板貼りの仮の頭部を付けた大仏は、大仏殿がない状態で百年以上の歳月を過ごしました。その大仏を復興したのが公慶上人です。公慶上人は勸進帳を作って諸国を歩き、大仏復興を成し遂げます。続いて大仏殿の再建に着手しますが、その完成を見ることなく、宝永二年(一七〇五)に五十八歳で亡くなりました。公慶上人が亡くなって今年で三百年。大仏復興と大仏殿再建により、奈良は全国から大勢の参詣者を迎えるようになりました。現在のような観光都市奈良は公慶上人が基礎を築いたとも言えます。しかし公慶上人の名はほとんど知られていません。本展は、①大仏殿炎上、②公慶上人、③江戸時代の奈良、の三部構成で、公慶上人の生涯とその行跡の全貌を明らかにする初めての展覧会です。



◎公慶上人坐像(東大寺)



大仏開眼供養図(東大寺)

展 示 評

〈外からみる奈良博〉



観覧風景

特別展『古密教』の壮観

慶應義塾大学名誉教授 紺野 敏文

密教美術関係の特別展はこれまで何度も各地の博物館で開かれていたが、意外にも奈良時代を中心とする古密教（または雑密）をテーマとした包括的系統的な特別展はなかったように思う。奈良国立博物館によるこの展示企画を知ったのはそれほど前ではないが、タイトルを聞いた段階で、本場による本領発揮の機会を捉えた格好の企画という感慨を持った。そこに、密教（純密）とその美術を理解する前史や過程という観点に立つのではなく、日本が受容して展開させた仏教の本源に関わって選りすぐりの美術品・諸資料を通して当代の密教が追及した造形やその多面性を探るという視点を期待したからである。展示は期待に違わないどころか上回るものがあり、密度が濃く、多角的で、やや欲張りともいえるほどの内容であった。密教世界のコトバを語るのは変化観音ほか呪力の強い菩薩・天部等の彫像・絵画、テキストとなる経典、僧侶の活動（ドキュメント・肖像）が主役であるが、本展には古密教の重層する世界を示そうとする意欲が認められ、空海が開いた密教の根にある山岳修行の奥行きをも示そうとした。

その構成は中国の古密教像に接する導入部があり、続いて日本に通じた異形の力作が揃う木造変化観音像への展開があり、次いで虚空蔵菩薩・如意輪観音像を主とする「陀羅尼の教主」という古密教の現象を丹念に集めた作例を介して綴る。併せて実践的な悔過法に注目して薬師・吉祥天・十二面関係や呪術的法具、護国経典にわたる関連資料が息もつかせぬほどの迫力で攻めて来る、というのが前半部であり、本展の主軸となる導線をつくったといえよう。これだけ見てもすでに満ち足りた疲労感を覚えた。

後半にあたる展示では、「山の修行者」を入れ、修験道に繋がる古密教の山岳志向が大峰山、日光男体山の呪的な法具を通して探られ、さらに近年発掘された東大寺丸山西遺跡が東大寺前身の密教的古層を伝えるかたちで語られる。そして最後に「古密教から空

海へ」という終章を設けた。なんと東寺の両界曼荼羅（伝真言院）や金剛峰寺西塔伝来の木造大日如来像、醍醐寺本五大明王画像の二揃いである。密教美術の本幕にまで入り込んだ内容で、これはもう空海等の果たした密教修法・美術の結実ないし展開である。

以下作品について蛇足の感想をいえば、真つ先に陳列された中国・河南省大海寺出土の脇面を持つ六臂十二面観音像は強いインパクトを持つ国内初公開の石像であるが、儀軌を離れた、なんとも大らかなすがたで、変化観音の出現と日本への伝播を知る意味でも嬉しい機会であった。一方、日本に伝来して中国では消えた精緻な檀像彫刻の逸品が三百六十度で観覧できて幸いであったが、これに法隆寺の九面観音像を連ねれば贅沢すぎたであろうか。とはいえ、日本古密教彫像を代表する唐招提寺と大安寺の木彫像を並べ立たせ、異なる激しい呪力と技を競わせた演出は当博物館ならではの試みであろう。それにしても大安寺像のヒンズー神に通じる怪は異国僧が集い密教色も濃かった大安寺の様相を際立たせた。

個人的な関心では、虚空蔵菩薩の彫像・画像・板絵との久しぶりの対面があり心が躍った。なかでも宝菩提院の菩薩半跏像がひとり当てられた空間を独占して、ひときわ秀逸な姿態を見せていたが、像を回れる鑑賞は多くの人々を魅了したであろう。私はこの像を虚空蔵菩薩と考えているが、関連づけた位置に配されていたことも腑に落ちた。ただし、虚空蔵法の展開を空海以後の求聞持法の作例や奈良・弘仁寺の明星菩薩像にも広げ、さらに古密教に発し福德法にも追つてもらうと、より展望が見えたと思われる。併せて、図録には内容の深い諸論があり、関連の講座も開くなど、この特別展は確実に進化を図っていた。最後に、「ほとけさまのお花―蓮―」が併催されていたが、ほとけの象徴性や密教と重なる浄土のイメージが蓮をモチーフとする清涼な展示風景となり、また平常展も関連する作品を含めた本展に劣らぬ壮観さで、堪能することしきりであった。



延暦十二年曝涼解(北倉163):「正倉院展」



金銀龜甲某局藤(北倉36):「正倉院展」



槃龍背八角鏡(北倉42):「正倉院展」

特別展

第五十七回 正倉院展

10月29日～11月14日 東西新館

百索縷軸(北倉19)、雉色縷(南倉82)、平螺鈿背八角鏡(北倉42)、漆皮箱(北倉42)、槃龍背八角鏡(北倉42)、漆皮箱(北倉42)、木面紫檀某局(北倉36)、金銀龜甲某局(北倉36)、銀平脱合子(北倉25)、銀平脱合子(北倉25)、紅牙撥鏤某子(北倉25)、紺牙撥鏤某子(北倉25)、白某子(北倉25)、黑某子(北倉25)、東南院古文書第一櫃第七卷(中倉14)、延暦十二年曝涼解(北倉163)、花甌(北倉150)、花卉及鳥形夾縷圖・牛形縷縷圖(中倉202)、摺布屏風袋(中倉202)、瑠璃壺(中倉71)、深黃瑠璃(中倉183)、黃瑠璃(中倉184)、綠瑠璃(中倉185)、碧瑠璃(中倉186)、黑瑠璃(中倉187)、金銀鈿莊唐大刀(中倉8)、金銅鈿莊大刀(中倉8)、銅漆作大刀(中倉8)、正倉院古文書正集第二卷(中倉15)、正倉院古文書正集第十八卷(中倉15)、統修正倉院古文書第五卷(中倉16)、統修正倉院古文書第二十六卷(中倉16)、統修正倉院古文書第二十二卷(中倉20)、統修正倉院古文書第二十一卷(中倉20)、統修正倉院古文書第二十五卷(中倉20)、東大寺開田地圖(中倉14)、紅布幡(中倉202)、縹布幡(中倉202)、淺綠地鹿唐花文錦大幡脚端飾(南倉180)、大歌綾綾袍(南倉118)、縹覆町形帶(南倉147)、赤地錦几褥(南倉150)、犀連珠門文錦殘片(中倉202)、錦貼交屏風(南倉179)、蟬羽羅(南倉148)、緋縹鳥兜(南倉3)、金銅鳳葛形裁文金具(南倉165)、金銅緣輪(南倉165)、布虎兜(南倉4)、布虎兜(南倉74)、布作面(中倉202)、布作面(南倉

特別展

金沢文庫の名宝

12月3日～1月15日 東西新館

第一章 金沢北条氏の歴史

●絹本着色北条実時像、●絹本着色北条時時像、●絹本着色金沢貞時像、●絹本着色金沢貞時書状、●北条実時書状、●北条貞時書状、●青磁壺、●円覚経、●金沢貞時書状、●青磁壺、●東明慧日贊、●吾妻鏡断簡、●元朝寄日本書、●高麗寄日本書、版本伝心法要

第二章 称名寺の創建と発展

木造審海上人坐像、木造観音・勢至菩薩立像、厨子入白檀製阿弥陀三尊像、●絹本着色審海上人像(山二寧賛)、●絹本着色伝湛睿和尚像、●絹本着色忍性菩薩像、●鍍子、五銚鈴、三銚鈴、独銚杵、●称名寺条々規式、審海書状、●釧阿書状、●湛睿書状、忍性書状、凝然書状、●明儒願文集、諸経要文伽陀集、伝法灌頂雜要抄、宋版四分律刪補隨機羯磨、●称名寺絵図、●連歌懷紙

第三章 称名寺伝来の仏教美術

絹本着色仏涅槃図、絹本着色高僧像(羅雲尊者像)、絹本着色道宣律師像、絹本

著色元照律師像、絹本着色香象大師像、●木造十一面観音立像、●木造釈迦如来立像、木造十大弟子立像、木造不動明王三童子像、●厨子入金銅製愛染明王坐像、●玉華鬘、金銅華鬘、青磁香炉、青磁花瓶・花台、灰釉四耳壺、黒釉壺、八幡宮扁額、●玉簾、●金銅装宝篋印塔、●絹本着色十王図、●絹本着色十六羅漢像、●絹本着色羅漢像(羅云像)、●絹本着色僧形八幡神像、●絹本着色三十番神像、●絹本着色焰摩天曼荼羅、●絹本着色十二神将像、●絹本着色種子愛染明王図、●絹本着色三千仏図(甲本)、●金剛界次第図、●諸尊図像集天部等、覺禪鈔、図像抄、●宝寿抄、神體図記

第四章 金沢文庫と称名寺の学問

●文選集注、●日本図、室生山図、●法曹類林、善財童子縁起、念仏往生伝、●宋版一切経、●弘決外典抄、秦澄和尚伝、法華経信解品、華嚴信種義問集記、華嚴論節要、選撰集述疑、心要洞玄記、大明録、善知衆芸童子法、授決円多羅義集唐決、自行三時礼功德義、宋版南史列伝、春秋曆、集七十一家相書

参考出陳

木造薬師如来立像(太寧寺所蔵)、木造十二神将立像(奈良国立博物館所蔵) ※以上、参考出陳以外はすべて称名寺蔵・神奈川県立金沢文庫保管 ※会期中に展示替えを行います。

特別展

東大寺公慶上人

江戸時代の大仏復興と奈良
12月3日～1月15日 西新館

I 大仏殿炎上

三好長慶禁制、東大寺記録写(以上、東大寺)、多聞院日記(興福寺)、白鷺図(山

田道安筆)(東大寺)、陶弘景図(山田道安筆)(薬師寺)、正親町天皇繪旨(毛利陸奥守宛)(個人)、●正親町天皇繪旨案、●織田信長朱印状(以上、東大寺)、お水取り絵巻(個人)、●豊臣秀吉朱印状、●徳川家康朱印状案、●毛利輝元黒印状、寺中寺外惣絵図(以上、東大寺)

II 公慶上人

II-1 学僧公慶

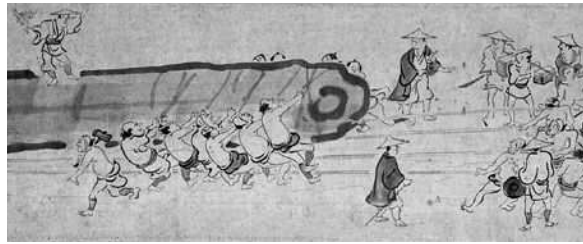
●公慶上人坐像(東大寺)、公慶上人像(東大寺龍松院)、修云交名(寛文六年)、修二会交名(貞享二年)、牛玉の誓詞、夏季別宗談議着到、法華会義名注進状、公慶上人請文、以上、東大寺、公慶上人注進状(個人)、三論玄私考(以上、東大寺)、三論頌頌(東大寺龍松院)、光明真言(個人)、火焰宝珠嵌装舍利厨子(公慶上人所持)、●公慶上人年譜(以上、東大寺)

II-2 大仏修復勸進

南都大仏修復勸進帳、勸進帳屏風(以上、東大寺)、公慶上人立願状(貞享三年)(以上、法楽寺)、大仏螺髪(勸進用)、大仏螺髪、大仏縁起絵巻、●勸進杓(重源上人所用)附箱及袋(桂昌院寄進)、●鉦鼓(重源上人所用)、●公慶上人鉦鼓借用状(以上、東大寺)、公慶上人書状(作兵衛宛)(個人)、曲尺(公慶上人拾得)、自然木杖(公慶上人所用)、東山天皇繪旨(上人号)(東大寺)、公慶上人途東武祝詩、奉加帳請取状(以上、個人)、京大絵図(公慶上人托鉢道順朱書入)(大東急記念文庫)、大仏殿新始千僧供養私記、聖武天皇坐像(以上、東大寺)、東大寺聖武尊体御殿図(勸修寺)、釈迦如来坐像(東大寺)、釈迦如来坐像、日月堂縁起(以上、光泉寺)、東大寺大仏開眼供養記、年中



木造十大弟子立像・迦葉(称名寺)
:「金沢文庫の名宝」



大仏殿虹梁木曳図(東大寺):「東大寺公慶上人」



●薬師如来立像(唐招提寺):本館第1室

行事記(元禄五・六年)(東大寺)、開眼供養次第(済深法親王筆)(勸修寺)、南京声明(済深品法親王御筆)(勸修寺)、開眼筆(模造)、大仏供養絵図、大仏開眼供養図、法華經(千部經)、◎大方等大集菩薩念仏三昧經(伝聖武天皇筆)、◎大威徳陀羅尼經(伝光明皇后筆)、◎五獅子如意、風字硯(以上、東大寺)、春日社日記(元禄五年)(春日大社)

II-3 大仏殿再建勸進

大仏殿再建勸進帳(東大寺)、南都大仏殿略縁起(東大寺龍松院、徳川家康(東照権現)坐像(手向山八幡宮)、徳川綱吉像、桂昌院像(以上、長谷寺)、隆光僧正像、隆光僧正書狀(以上、唐招提寺)、書見台(徳川綱吉寄進)(東大寺龍松院)、二月堂御正体(桂昌院奉納)、工匠具、工匠具、大仏殿瓦(岡山・児島出土瓦)、◎公慶上人書狀(西国沙汰所宛)、◎公慶上人書狀(以上、東大寺)、公慶上人銀子借用狀、公慶上人書狀(東南院灌頂)(以上、法華寺)、公慶上人書狀(葉師寺)、公慶上人書狀(五月八日附表具)(個人)、舍利由來狀(国立歴史民俗博物館、龍藏寺縁起(龍藏寺)、六字名号(以上、個人)、六字名号懸額(東大寺)、大仏殿六十分老大修繕半成功之図(東大寺龍松院)、東大寺大仏殿建地割(七間×七間)、東大寺大仏殿建地割(五間×五間)、東大寺大仏殿建地割(十間×七間)、東大寺大仏殿建地割(七間×七間)、東大寺大仏殿指図(七間×六間)、東大寺大仏殿指図(五間×五間)、東大寺大仏殿造管木津材木揚場図、東大寺大仏殿廻り指図(十一間×七間)、東大寺大仏殿指図(七間×七間)、東大寺大仏殿建地割(梁行断面

図)、東大寺大仏殿諸色入用積目録帳、東大寺大仏殿諸色入用積差引帳(以上、東京都立中央図書館蔵・堀内家文書)、大仏殿虹梁木曳図(東大寺)、公慶上人書狀(興福院宛札状)(興福院)、大仏殿落慶供養図、◎大仏殿棟札、江戸再建大仏殿軒丸瓦、江戸再建大仏殿軒平瓦(以上、東大寺)、大仏殿再興発願以來諸興隆略記、龍松院公盛公俊 庸訓代々諸興隆略記(以上、勸修寺)

III 江戸時代の奈良

持国天立像頭部、増長天立像頭部、東大寺境内図、奈良町絵図、正倉院開封之図、同行列絵図(以上、東大寺)、ならめいしょゑつ、南都大仏殿遠矢之図、奈良名所廻双六、奈良名所図屏風、南都八景(以上、個人)

※会期中に展示替えを行います。

平常展

仏教美術の名品 彫刻

10月~12月 本館

奈良時代の仏像

第1室

◎脱活乾漆・木造梵天立像、◎脱活乾漆・木造伝救脱菩薩立像(以上、秋篠寺)、◎銅造法華説相図(長谷寺)、◎木造菩薩立像(金竜寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像及び灌仏盤、◎銅造光背(二月堂本尊所用)、◎木造西大門勸額(以上、東大寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(悟真寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、銅造誕生釈迦仏立像(個人)、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像(以上、当館)、◎脱活乾漆舍利弗立像、◎脱活乾漆目犍連立像、◎脱活乾漆緊那羅立像(以上、興福寺)、◎木造十一面觀音立像(葉師寺)、◎木心乾漆伝義淵僧正坐像(岡寺)、◎木心乾漆阿閼如來坐像(西大寺)

平安・鎌倉時代の仏像

第2室

◎木造阿弥陀如來立像、◎木造重源上人坐像(以上、浄土寺)、木造閻魔王坐像、木造泰山府君坐像(以上、東大寺)、◎木造葉師如來立像(元興寺)、◎木造十一面觀音立像(葉師寺)、◎木造十一面觀音立像(勝林寺)、◎木造十一面觀音立像(地福寺)

特集展示へ新薬師寺伝来の十一面觀音立像

◎木造十一面觀音立像(新薬師寺)、◎木造十一面觀音立像(当館)

特集展示へ法隆寺伝法堂・乾漆造の諸尊像

◎脱活乾漆阿弥陀三尊像(中の間)、◎木心乾漆阿弥陀三尊像(東の間)(以上、法隆寺)

◎ガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻

第4・6室

ガンダーラ 石造菩薩立像、石造仏伝図浮彫(以上、当館)、ストウツコ如來頭部、ストウツコ如來坐像、ストウツコ菩薩立像、ストウツコアトラス像、石造貴婦人群像(以上、個人)、*中国* 銅造二仏並坐像、方形独尊坐像、方形阿弥陀三尊像、方形独尊像、小型独尊像、◎石造三尊像、石造菩薩頭部(寧県)(以上、当館)、銅造三尊像、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、◎木造諸尊像、多宝塔像、石造如來頭部(雲岡)、石造五尊像、石造三尊像、石造淨土像、◎石造三尊像、石造三尊像(以上、個人)

朝鮮半島 銅造如來立像(光明寺)、銅造如來立像(当館)

◎檀像

◎木造十一面觀音立像(当館)、◎木造弥勒仏坐像(東大寺)、◎木造維摩居士坐像(石山寺)、◎木造觀音菩薩立像(本山寺)

◎舞楽面

◎舞楽面・散手、◎舞楽面・胡飲酒、◎舞楽面・胡德樂(2面)(以上、手向山八幡宮)、◎舞楽面・貴徳、◎舞楽面・陵王(以上、東大寺)、舞楽面・崑崙八仙(当館)、◎銅造菩薩半跏像(東大寺)、銅造觀音菩薩立像、銅造菩薩立像、銅造觀音菩薩立像(以上、当館)、◎銅造觀音菩薩立像(觀心寺)、◎銅造菩薩立像(法起寺)、◎銅造菩薩半跏像(神野寺)、◎銅造觀音菩薩立像(金剛寺)

◎平安時代後期の仏像

◎木造十一面觀音立像(松尾寺)、木造釈迦如來坐像(法隆寺)、木造菩薩半跏像、木造不動明王立像(以上、個人)、◎木造増長天立像(称名寺)、◎木造増長天立像(法明寺)、◎木造不動明王坐像(園城寺)、木造大日如來坐像(元興寺町)、木造阿弥陀如來坐像、木造阿弥陀如來坐像、木造広目天立像(以上、当館)、木造阿弥陀如來坐像(金剛寺)

◎鎌倉時代の仏像

◎木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造地藏菩薩立像(東大寺)、◎木造馬頭觀音立像(淨瑠璃寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院)

◎神仏習合の彫像

◎銅造蔵王権現立像(二軀)(大峰山寺)、◎木造八幡三神坐像(葉師寺)、木造蔵王権現立像、木造童子形坐像、木造男女神像、木造大將軍神坐像(以上、当館)、◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)

◎平安・鎌倉時代の金銅仏

◎銅造阿弥陀三尊像(善光寺式)(善光寺)、銅造蔵王権現立像(個人)、銅造釈迦如來坐像、銅造軍荼利明王立像(以上、

園城寺)、銅造不動明王立像、銅造大威徳明王坐像(以上、当館)
〈神将形の彫像〉 第13室
 ◎木造十二神将立像(東大寺)
特別出陳
 国宝 **木心乾漆薬師如来立像**
 (唐招提寺金堂) 本館 第1室
平常展
 中国古代青銅器(坂本コレクション) 本館 第14室・第15室
 爵・尊・鼎など中国古代の商(殷)～漢代に製作された青銅器の逸品を展示しています。
 ●Ⅱ国宝 ●Ⅱ重要文化財
 以上すべての展示において、内容を一部変更する場合があります。
パネル展示 地下回廊
 ・国宝 **十一面観音像**(当館蔵) **光学的調査の成果**
 ・修復文化財

●公開講座●

「第57回正倉院展」

10月30日(日)「正倉院文書の調査ー原本から何が分かるかー」
飯田 剛彦 (宮内庁正倉院事務所保存課調査室員)
11月 5日(土)「玄奘帰朝のインパクトと唐代宮廷仏教ー
正倉院聖語蔵『大毘婆沙論』出陳によせてー」
稲本 泰生 (当館企画室長)
11月12日(土)「正倉院の遊戯具」
増川 宏一 (遊戯史学会会長)

特別展「金沢文庫の名宝」

12月 3日(土)「金沢文庫と称名寺」
高橋 秀榮 (神奈川県立金沢文庫長)
12月10日(土)「鎌倉文化のなかの金沢文庫」
西岡 芳文 (神奈川県立金沢文庫主任学芸員)

特別展「東大寺公慶上人」

12月17日(土)「江戸時代の東大寺」
森本 公誠 (東大寺管長)
12月24日(土)「近世の奈良と東大寺」
坂東 俊彦 (東大寺寺史研究所研究員)
1月 7日(土)「公慶上人の生涯」
西山 厚 (当資料室長)

※いずれも午後1時30分より(1時に開場・整理券配布) ※当館講堂にて
※定員200名(先着順) ※聴講無料

●正倉院展ボランティア解説●

10月29日(土)～11月14日(月)
「正倉院展の見どころ」(解説ボランティア)
会期中毎日5回、30分程度。
10時～、11時～、12時～、午後1時30分～、午後2時30分～
於、当館講堂
ただし、他の催し等のために中止となる回もあります。

●ギャラリー・トーク●

10月12日(水) 「檀像」(本館第7室)
鈴木 喜博(当館上席研究員)
11月 9日(水) 「春日東西両棟」(本館南側塔跡)
岩戸 晶子(当館工芸考古室員)
12月14日(水) 「金沢文庫の絵画」(講堂)
北澤 菜月(当館企画室員)

※午後2時より ※入館者は聴講自由

●奈良国立博物館賛助会員通信

2005年9月31日現在、個人会員7名、団体会員4団体の登録を頂いております。
新規会員となられた方のご芳名をあげさせていただきます。
個人会員 富山 尚一 様
*賛助会員に関するお問い合わせは、
奈良国立博物館 渉外課 賛助会員担当まで。 0742-22-7771(代)

参加者募集中です！

親子の文化財教室「室町時代の歴史と美術」

学校では教えてくれないことを、楽しく学びませんか。

[第6回] 10月 8日(土)
「大乘院跡・元興寺」
(現地見学、当館講堂集合) 吉澤 悟・岩戸晶子
[第7回] 11月12日(土)
「水墨画と大和絵」 中島 博
[第8回] 12月10日(土)
「金閣と銀閣」(現地見学、集合場所未定) 内藤 栄

(会場) 当館講堂および展示室、または見学地。
(時間) 午前10時～12時。
*教室終了後、当日当館で開催中の特別展・平常展などを自由に観覧できます。
(対象) 小学校5・6年生と中学生、および保護者
(児童・生徒のみでも参加出来ますが、大人のみの参加はできません)。
(費用) 参加は無料です。ただし現地見学の時は、観覧料など実費を負担して頂きます。
(申し込み方法) 郵便またはファックスで、下記の事項を明記して、当館の教育室へお申し込み下さい。
*参加希望の回(何回でも結構です)
*氏名・学校名・学年・参加保護者氏名・郵便番号・住所・電話番号・ファックス番号

●展覧会日程●

	10 月	11 月	12 月	平成18年1月
本 館	平常展(彫刻)・(中国古代青銅器) (～12/25) (1/2～)			
東 新 館	正倉院展(10/29～11/14)		特別展 金沢文庫の名宝(12/3～1/15)	
西 新 館	特別展 遣唐使と唐の美術(～10/10) 特別陳列 模造にみる正倉院宝物(～10/10)		特別展 東大寺公慶上人(12/3～1/15)	

※12月26日(日)～1月1日(日・祝)は、年末・年始休館日

展示品の 見どころ

もく が し たんのき きょく 木画紫檀碁局

正倉院北倉
縦49.0cm 横48.8cm 高12.7cm
8世紀

碁(囲碁)は盤と黑白2種の石を使って、盤面で陣取り合戦を繰り広げる遊びである。古代中国で成立し、日本には朝鮮半島を経て6世紀には伝わっていたと考えられている。天平時代には貴顕や僧侶の間で愛好され、双六などととも盤上の遊戯として楽しまれたようである。

本品は、宝庫に伝わる3つの碁盤の内の1つで、中でも最も細工や技巧が凝らされたものである。『国家珍宝帳』記載の「木画紫檀碁局一具(牙界花形象牙床脚 局両辺着環 局内蔵納碁子 亀形器納金銀亀甲籠) () 内割書」と記述が符合し、そのものに当たると考えられる。

南方産のシタン材をふんだんに用い、盤面の界線は象牙、17個の花形の星は花心をツゲ、花卉を象牙で表している。各側面は4区にわかれており、ラクダを引く人物や狩猟文様など異国情緒あふれるモチーフが散りばめられる。これらは象牙を切り抜き、毛彫りを施して彩色を加えた精妙なものである。盤面及び側面の縁は、ツゲ、コクタン、象牙等を用いて菱形繋ぎ文を作り、木画技法で表している。脚部は格状間を透かし、側面同様象牙を



細工して山岳、飛鳥、獣が表されている。畳摺は象牙で縁取りを行ない、上面は金箔を押し、丹地に朱・緑・紺などで宝相華文を表して、その上から半透明の物質を貼り付けている。畳摺の側面には菱形繋ぎ文を木画で表している。

側面左右の対角線上の各1区は、金銅製の環を着けた引き出しとし、内部に亀形の碁石入れが配される。この引き出しは一方を引くともう一方も引き出されるようクランク状の仕掛けが施されていて、古代の技術の高さがうかがわれる。

本品は、その装飾といい、機知に富んだ仕組みといい正倉院宝物中屈指の出来映えを示しており、聖武天皇御遺愛の品というのも大いにうなずかれる逸品中の逸品である。

(当館研究員 清水健)

※第57回「正倉院展」は10/29～11/14。会期中無休。

●館内イベント情報(10～12月)●

- シルクロード・プロジェクト 10月8日(土)～12日(水)
シルクロード・アンサンブルによるミニコンサートほか
開演時間不定期、無料(観覧会場での演奏は観覧料金のみ要)
- バロック音楽の夕べVol.Ⅵ 10月28日(金)
明治時代の優美な建物内で聴くバロックの名曲
18時30分開演、5,000円(正倉院展入場券付き)

- 声藝舎公演 オペラ『仏陀 求道の人』 11月5日(土)
悟りへの道をオペラで...
19時30分開演、5,000円(正倉院展入場券付き)

- 雅楽の夕べ 11月11日(金)
間近に聴ける雅楽「南都楽所」の演奏
17時開演、2,000円(予定)

※いずれのイベントも詳しくは当館ホームページ、もしくは下記までお問い合わせ下さい。TEL 0742-22-7771

開館予定(10月～12月)

- 開館時間 9時30分～17時(ただし、10月7日～11月11日までの毎金曜日および12月17日(土)は19時まで開館)。「正倉院展」の会期中は9時～18時まで開館
※ いずれも入館は閉館の30分前まで
- 休館日 月曜日(ただし、「遣唐使と唐の美術」および「正倉院展」の会期中は無休)
10月10日(月・祝)は開館、10月11日(火)は本館のみ開館(無料観覧日)、
10月13日(木)は臨時休館
12月26日(月)～平成18年1月1日(日・祝)は年末・年始休館日

■観覧料金

特別展 遣唐使と唐の美術

	大人	大学・高校生	中学生以下
当日	1,300円	900円	
団体	1,100円	800円	無料

*団体は責任者が引率する20名以上。

特別展 金沢文庫の名宝
特別展 東大寺公慶上人

	大人	大学・高校生	中学生以下
当日	1,000円	700円	
前売・団体	900円	600円	無料

*両方の特別展および平常展もご覧いただけます。

特別展 第57回正倉院展

	大人	大学・高校生	中学・小学生
当日	1,000円	700円	400円
前売・団体	900円	600円	300円

*特別展観覧料金で平常展もご覧いただけます。

平常展・特別陳列

	大人	大学・高校生	中学生以下
一般	420円	130円	
団体	210円	70円	無料

*団体は責任者が引率する20名以上。



(交通案内) 近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(90円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。



奈良国立博物館

Nara National Museum